

## コラム 路面すべり特性の評価に関して受託研究を実施

冬期道路管理において路面の状態を的確に把握することは効率的な管理を行う上で非常に重要です。しかし冬期には、気象条件、交通条件、沿道環境、橋梁やトンネルのような道路構造物などの影響によって路面の状態が複雑に変化するため、その把握は容易ではありません。現状の道路巡回では、巡回者が目視により定性的に路面状態を判別していますが、人の目では正確な判別が難しかったり、判断には個人差があったりすることから、その正確性には限界がありました。そこで寒地交通チームでは、路面状態の定量的な評価指標として路面のすべり抵抗値に着目し、連続路面すべり抵抗値測定装置(CFT)による測定データを道路管理者にリアルタイムに情報発信するシステムを構築しました。すべり抵抗を測定することで、要注意箇所の把握、凍結防止剤の散布要否判断と散布効果の検証、凍結抑制舗装の効果検証、路面管理水準の評価、など管理上有益な様々な情報が得られます。



写真-1 連続路面すべり抵抗値測定装置(CFT)

すべり抵抗による路面評価技術には積雪寒冷地はもちろん、全国の道路管理者から引き合いがあり、これまでに数多くの受託研究を実施しています。平成27年度には、NEXCO 東日本から山形自動車道の冬期路面のすべり抵抗の実態把握と路面管理手法の評価を目的とする研究、また札幌市からは、市内のロードヒーティング停止箇所の安全性の検証と路面管理方法の検討を目的とする研究を受託しています。

受託研究によって研究の成果を社会還元すると共に、より多くのデータが得られることで研究の質的向上が図られました。



写真-2 山形自動車道での計測



写真-3 札幌市内での計測